

# 緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.171

発行:平成30年4月1日

## 講習会のご案内 (お申込み・受付は前月の20日から)

### 「観葉植物の植替え」-シヅカ、ゴムノキなど- (実費)

とき 平成30年4月15日(日) 1人5鉢まで  
午後 1:30~3:30 定員 10名  
講師 緑のセンター相談員



### 「洋ランの植替え」-シンビジウム-1人2鉢まで (実費)

とき 平成30年4月21日(土)  
午後 1:30~3:30 定員 20名  
講師 緑のセンター相談員



### 「洋ランの植替え」-コチョウラン他-1人2鉢まで

とき 平成30年4月22日(日) (実費)  
午後 1:30~3:30 定員 20名  
講師 緑のセンター相談員



### 「神楽岡公園・春の自然観察会」-小学生以上-

とき 平成30年5月6日(日) 春の野草を探そう  
午後 1:30~3:30 定員 20名  
講師 旭川帰化植物研究会代表 塩田 惇さん



### 「花き、野菜の病害虫と防除」

とき 平成30年5月12日(土)  
午後 1:30~3:30 定員 30名  
講師 緑のセンター相談員



### 「山野草寄せ植え」¥1,000

とき 平成30年5月27日(日)  
午後 1:30~3:30 定員 20名  
講師 園芸家 森下 光晴さん



### 【平成30年度・連続講座のお知らせ】 13:30~15:30

#### 「プランターで育てる四季成り風

いちご栽培 全2回 ¥1,500 20名

4月7日(土)「いちご栽培の基本」  
8月18日(土)「いちご苗の鉢植え」



#### 「春のタイリトキノウと

夏のサギソウを楽しむ講座」

全3回 ¥1,000 20名  
4月8、8月5、9月23日



#### 「これから始める家庭菜園」

全2回 ¥500 20名

4月28日(土)「畑の準備と野菜苗の植え付け」  
6月23日(土)「野菜の仕立てと病害虫防除」



マッチャンカボチャ



### おしらせ

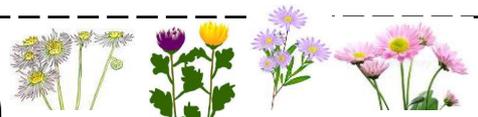


色々な菊があるんです〜

**NEW** 「誰でも楽しめる美しい菊ガーデン講座」 全3回 ¥500 (土) 定員20名 初級者  
5月26日「菊の開花生態、さし芽実習」 6月9日「花壇の土作り、鉢植え実習」 10月20日「花後の管理と親株育成」



## 展示会のご案内



(初日は午後から、最終日は4時まで)

「野の花写真展」4月7日~29日

「ミニ盆栽展」 5月11日~13日 「山野草展」5月25日~27日

#### 【休館日のお知らせ】

4月~10月は第2・第4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)  
11月~ 3月は毎週月曜日が休館日です。 ( " )

#### 「サツキの展示会と相談」

5月25日~27日

10:00~16:00

相談: 随時・無料

旭川さつき会



# 〈園芸の基礎知識〉 植物の種子の構造と働き

## ～ 6 特殊な品種改良による種子～

### ■突然変異育種

突然変異育種は、放射線や化学薬剤を用いて突然変異を人為的に誘発し、その変異体から有用な個体を選抜することにより、作物の品種改良を進める育種法です。日本では1960年に農林水産省放射線育種場が創設され、主にガンマ線照射による突然変異誘発に関する研究が進められてきました。1990年代より新しい放射線として重イオンビームが注目されるようになり、研究が進められています。ガンマ線よりもエネルギーが高く、照射の位置や深度を精密に制御できるという特徴があり、特に不稔化、新花色といった育種目標に有効といわれています。現在、理化学研究所加速器施設、日本原子力研究所高崎研究所などで植物実験が実施されています。

### ■遺伝子組み換え(GM)作物

自然または人工交配によらずに、遺伝子組換え操作等の生物工学的手法を用いて遺伝子を導入した作物を遺伝子組み換え作物といいます。2016年における世界の遺伝子組み換え作物の栽培面積は約1億8千万ha(日本の農地面積の約40倍)です。主な農作物はダイズ、トウモロコシ、わた、セイヨウナタネの4種です。現在、国内での遺伝子組み換え作物については多くの議論がなされ、一部では自治体独自の条例による管理も行なわれており、食用・飼料用として使用することを目的とした遺伝子組み換え農作物の商業栽培はない(遺伝子組み換えバラのみ商業栽培)といわれています。

### ■ターミネーター技術

種子の次世代栽培ができなくなる技術であるGURT(Genetic Use Restriction Technology)、一般的にはターミネーター技術と呼称している一連の技術が、米国で1990年代前半に考案されました。当該技術は、品種権の意図的保護や独占だけでなく、遺伝子組み換え作物の意図しない拡散や生殖質浸透(種子や花粉の拡散と交雑)を妨げる効果があります。しかし、食用の穀物は、当然食糧として保存されますが、一方これらは、種子として次世代の作物を生産することもできます。このようなオプションをなくすGURTは、国家的食糧保障や世界的な食糧供給に大きな影響を及ぼすのではないかと懸念があります。FAOや生物多様性条約事務局は、当該技術の利用による遺伝子組換え体の作成と遺伝子拡散の制御について検討してきています。また、開発者もリスクが大きいことを認めて、開発を凍結させています。

(参考資料:農山漁村文化協会「最新農業技術事典」、NBDC-HP「バイオテクノロジーの基礎知識Q&A」ほか)

## 緑の相談 Q&A (45)

アブチロンを育て3年ぐらいになりますが、1度も植え替えしたことが無いので、以前電話で相談したら5月頃に植え替えしたら良いと聞きました。今回植え替えたいと思いますので、植え替えの方法と注意点などを教えてください。



アブチロンはアオイ科イチビ属でブラジルが原産の熱帯花木で、生育も良く比較的育てやすい植物です。一般に旭川では室内の窓辺などで育てられ、真夏を除き日当たりの良い室温10℃以上の場所であれば咲き続けます。植え替えは1年に1回、切戻し後の4～6月頃に行います。水はけの良い混合土(赤玉土中粒6割、腐葉土3割、火山レキ1割)に緩効性化成肥料を適量混ぜて植え替えます。切戻した枝は調整し挿し木で殖やすことも可能です。注意点は、風通しや日当たりが悪かったり、根詰まりすると極端に生育が悪くなります。また、花後にタネがつくと開花が悪くなりますので、花がら摘みが必要です。花期が長いことから肥料切れにも注意してください。

(参考資料:NHK出版「趣味の園芸」、北海道新聞社「北海道四季の家庭園芸」ほか)

※ホームページ (<http://www.asahikawa-park.or.jp>) に「花と緑の相談コーナー(Q&A)」を掲載しています。こちらをご利用ください。

# 植物の病害

## その42 「ウイルス・モザイク病」



ジャガイモの症状



マクワウリの症状



ニンニクの症状

### 1 寄生しやすい植物

カブ、オクラ、カボチャ、キュウリ、コマツナ、サツマイモ、ジャガイモ、ダイコン、チンゲンサイ、トウモロコシ、トマト、ナス、ニンジン、ニンニク、ネギ、ハクサイ、ピーマン、パプリカ、ブロッコリー、ホウレンソウ、マクワウリ、ラッキョウ、など

### 2 被害

ウイルス病はモザイク病とも呼ばれ、次のような症状があります。萎黄病(葉・茎が黄変する)。萎縮病(葉・茎が成長せずに萎縮します)。モザイク病(葉に濃淡のモザイク状「まだら模様」の病斑が現れます)。葉巻病(葉が巻いて萎縮します)。輪紋病(黄色～緑黄色の輪紋が現れます)。ウイルスと植物の組み合わせによって症状もさまざま、軽症のものから深刻なものまで、また、保菌していても発生しないこともあります。

### 3 生態

ウイルス病の原因となるウイルスは電子顕微鏡でなければ見えないくらい微小です。そしてアブラムシが植物の汁を吸う際に一諸にウイルスを吸い込んで、そのまま次の植物を加害することで感染します。このようにほとんどの場合、アブラムシが運び屋となって感染しますが、アザミウマ、コナジラミ、ハダニなどによって媒介されたり、ラン類では水で伝染することもあります。その他、剪定バサミを使い回すことで感染します。感染した植物の汁液が健全な植物に接触し侵入することが洋ラン類の株分けの際にあります。ウイルス病は感染すると全身にウイルスが広がるため、感染した植物を挿し芽や挿し木で殖やすとウイルスも一緒に殖えてしまいます。

### 4 防除法

ウイルス病は感染すると治療する方法はありません。発病した株は早めに抜き取り処分します。感染予防としてはウイルスを媒介するアブラムシなどを退治することですが、アブラムシがちょっと口針を植物にさし込むだけでも感染するといわれており、たとえアブラムシを退治しても感染が防げないことがあります。銀色のマルチなど、アブラムシの嫌いな反射光を利用します。汁液感染を防ぐには剪定や株分けの際に使用するハサミやナイフを使用毎に熱処理、または第三リン酸Naの飽和液で消毒します。

## 一年中、コーヒーを楽しむ

アカネ科 コーヒーノキ属

コーヒーを毎日、適量飲めば健康や美容に良いと効能が注目される一方で、コーヒーの木は鮮やかな緑の葉を一年中楽しめて癒しの効果があると云われます。

樹高が 1メートルを超えてくるところから白く可憐な花を咲かせるようになり、その後緑色の実を着けます。そして、その実はだんだん大きくなるにつれて、黄色から赤へと色付いていき、完熟すると真紅色へと変化します。この実はコーヒーチェリーと呼ばれ、もちろん食べることができますが、この種がコーヒーの原料になります。「いつの日かマイ・ブランド・コーヒーが飲める日が来る」と思って栽培するのも、この植物を育てる醍醐味です。



### 〈栽培のポイント〉

- 1、置き場所……春や秋の日差しが優しい季節は屋外の方が健康に育つが、直射日光と寒さが苦手。晩秋には屋内のレースカーテン越しの暖かい場所に取り込んで栽培管理する。
- 2、水やり……育てる環境によって異なるものの、夏場は週に2～3回ほど、冬は週1回が目安。鉢の表面がからっと乾いたら、鉢底から流れ出るだけたっぷり与える(受皿の水は捨てる)。冬は新しい芽や葉先が萎れかかったら与える。できれば午前中。量は生育期と同じくたっぷり。霧吹きは毎日でも有効。
- 3、肥料……生育する時期(春と秋)を中心に与える。5～7月は緩効性肥料に加えて液体肥料を規定濃度に薄めて与え、気温が高い時期(7月下旬～8月中旬)は負担を減らすためさらに濃度を薄める。
- 4、実を着けるコツ……上手に栽培すれば3～4年で1メートルほどに生育し、6～7年で人の身長ほどまで育つ。これ以降は、あえて鉢サイズを大きくしないで(10号鉢以内)、根を詰まらせ、その上で肥料を与えるのを止めると、実を着けやすくなる。
- 5、植替え……生育が旺盛な植物なので出来れば毎年、一回り大きな鉢に植替える。(鉢中で根詰まりを起こすと葉の先が茶色く枯れてくるので、この場合は季節を問わず植替えする。) 用土は保水性と排水性の良い土(混合土例:赤玉土6腐葉土3火山レキ1)が好ましい。

## 展示室の植物 (78)

### コンロンカ

学名: *Mussaenda parviflora*

アカネ科 コンロンカ属

コンロンカは熱帯アジアやアフリカなどに約 200 種類が分布する常緑つる性低木です。緑のセンター温室にあるパルビフローラ種は、濃緑色で光沢のある葉、純白のがく苞にかわいい黄色い花をちょこんと咲かせます。



耐寒温度は 10℃程度と寒さに弱いことから鉢植え(燈仕立て)にして、冬は温室に取り込んで栽培しています。

名前の由来は、白のがく苞が中国にある崑崙山脈の残雪に似ることから崑崙花(コンロンカ)と云われるそうで、この白のがく苞から別名「ハンカチの花」とも呼ばれています。花言葉は「神話」。変わった花言葉ですね。同じような名前の「ハンカチの木」とは科名も属名も違う別の植物です。